

防止隊だより 令和6年5月号

特集：カーボンニュートラル貢献施設
見学会を開催しました
防止隊事務局より：職員あいさつ

特集：カーボンニュートラル貢献施設見学会を開催しました

私たちの暮らしとつながるカーボンニュートラル ～岡崎に今ある施設から考えてみよう～

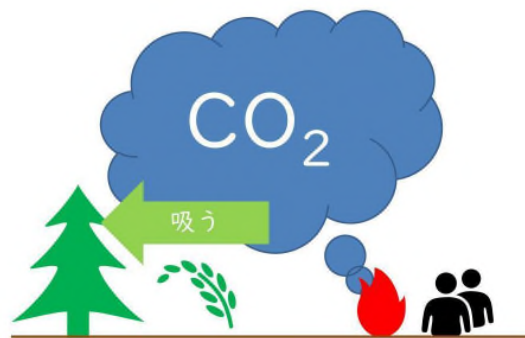


日差しに冬の終わりを感ずる3月14日(木)、私たち防止隊は「カーボンニュートラル貢献施設見学会」を開催しました。岡崎市内にある農業関連の施設「営農型太陽光発電施設」「JA あいち三河いちご生産拠点研修農場」を巡り、カーボンニュートラルと私たちの暮らしがどのようにつながっているのかを、市民のみなさんと考えてみるイベントです。

そもそもカーボンニュートラルって？——二酸化炭素（CO₂）に注目して

主な意味は「CO₂などの温室効果ガスの排出量と吸収量が差し引きゼロとなっている状態のこと」(※)です。私たちが化石燃料を燃やして温室効果ガスを排出し続ければ、地球温暖化は止まりません。その一方で、例えばCO₂は、陸や海の植物などが吸収してくれます。こうした排出と吸収のバランスが取れて差し引きゼロになれば、温暖化を防止できるでしょう。

そのため私たちの暮らしと植物との関わりは、地球温暖化にも深いつながりがあります。さらに化石燃料以外のエネルギーを使ったり、排出されたCO₂を回収したりするのも、カーボンニュートラルへの貢献になり得ます。



化石燃料
私たちの暮らしのCO₂と植物との関わり

※岡崎市地球温暖化対策実行計画（区域施策編 p.111 参照）

ソーラーパネルと農業の組み合わせ——営農型太陽光発電施設



私たちがまず訪れたのは、岡崎市竜泉寺町にあるソーラーパネルが立ち並ぶ施設です。ソーラーパネル自体は、近頃では街中の民家の屋根上から山間部の斜面にまで見られるようになり、すっかりおなじみの風景のひとつでしょう。この施設が他と違うのは「ソーラーパネルで発電をしながら、その下で農業もする」という営農型太陽光発電をしている点です。

写真のように、農地に簡易な構造で、しかも容易に撤去できる支柱が立ち並んでいます。支柱の高さと幅は、ちょうど耕運機や人が入れます。今は冬のために地表に何も植えていませんが、紅はるかや金時といったさつまいもを栽培。驚いたことに、近隣地域で育てる際の基準よりも高い収穫率のうえ、品質も良好なのです。

この施設は成瀬和徳さんが地域や行政などの協力を得て、平成 27（2015）年に稼働し始めたもの。日本全体でみても、まだ営農型太陽光発電という仕組みが広がり始めたばかりの、かなり初期のころに作られた施設です。畑の土はやわらかで排水設備もあり、ソーラーパネルが夏の猛暑をやわらげてくれるような感じがしました。

見学会当日は、成瀬さんが直接お話をしてくださいました。実際的な効果として農作物の販売収入と売電収入があり、電力の自家消費による光熱費の削減や、化石燃料を減らす方面でのカーボンニュートラルへの貢献も期待できるようです。ただ農地でもあるため、一定の基準を満たせるよう営農を適切に継続していくことや、各種の更新手続きが普及面での課題としてあげられました。

運転開始年月	平成 27 年 9 月
栽培作物	さつまいも
収穫率	110.67%
品質	良好
発電容量	132kW
年間発電量	約 172,000kW ※平成 30 年度

竜泉寺営農型太陽光発電施設の概要

化石燃料を燃やして排出された CO₂ を回収して活用する——JA あいち三河いちご生産拠点研修農場とフタバ産業株式会社のアグリーフ



次に見学した施設は、JA あいち三河いちご生産拠点研修農場です。実は岡崎市と幸田町は昭和 20 年代から続く生産地で、この農場ではいちごはもちろん、未来のいちご農家も育てています。いちごはハウスの中にあり、安定的に、大量かつ高品質ないちごを、クリスマス時期などの需要に合わせて市場へ出荷しています。

このハウスの中に、カーボンニュートラルに貢献しうる機械があります。防止隊の賛助会員でもあるフタバ産業株式会社がつくり出した「アグリーフ」です。冬場のハウス暖房から生まれる排気ガスを浄化して、大気中に放出されるはずの CO₂ をドラム缶に貯められるのです。

さらに「アグリーフ」は貯めた CO₂ を、パイプを通じていちごの株元へ送り込んで、再利用までできるように考えられています。1 ページ目で紹介したように、光合成をする植物は CO₂ を吸収して育ちます。環境・いちご・農家に貢献しうる施設として、参加者も興味をひかれたご様子でした。

現状では植物を相手とする農林業であっても、さまざまなシーンで化石燃料を使います。だからこそ安定した量と品質の作物が収穫できますが、CO₂ などの温室効果ガスが大気中に排出されるのは他の産業と変わりません。

ことは人間の生存から食文化にまで関わってくるため、農林業をどのようにカーボンニュートラルな状態にしていくかは、私たちの暮らしをどう考えていくかにも密接に関わる複雑な問題です。無駄に排出される CO₂ を回収し、再利用する科学技術の存在は、それを再生可能エネルギーでどう動かせるのかといった、複雑な問題を具体的な課題として考える助けになりました。



お知らせ①：岡崎市地球温暖化防止隊、今後のイベント開催予定スケジュール

イベント名	日程	内容	実施部会
再発見！ 環境フォトコンテスト 2024	9月30日(月) まで 募集中	岡崎市内の「緑」や「水辺」などの自然を題材とし、将来に残したい「いいところ」や今すぐ改善したい「わるいところ」の写真作品を募集しています。優秀作品には、賞状とQUOカードを贈呈予定です。奮ってご応募ください。 (詳細はホームページをご覧ください。)	自然委員会

* 申込方法など詳しい情報は、市政だよりもしくは岡崎市地球温暖化防止隊事務局までご連絡を♪

お知らせ②：岡崎市地球温暖化防止隊、各種会議開催予定日

役員会：代表・副代表・部会長・会計・監事・アドバイザー

日付	時間	開催場所
5月9日(木)	19時～21時	ZOOM オンライン開催

部会・委員会

部会名・委員会名	日付	時間	開催場所
交通委員会	5月20日(月)	19時半より開催	図書館交流プラザりぶら
広報部会	5月9日(木)	19時より開催	ZOOM オンライン開催
自然委員会	5月9日(木)	19時より開催	ZOOM オンライン開催

【岡崎市地球温暖化防止隊事務局 職員あいさつ】

今回は、今年度から防止隊事務局となった、市役所職員のお二人をご紹介します。同じ温暖化防止活動の仲間として、どうぞお気軽にお声がけください♪

ゼロカーボンシティ推進課事業推進係長 平岩 靖弘

はじめまして。この4月から、船山の後任として保育課から異動してきました。私は、市役所に入庁して23年となりますが、最初に配属された部署が、この環境部でした。騒音や大気汚染の担当として、市民の対応にあたっていました。その頃は環境部が、ここまで大きくなく、エコシールやエコバックの業務をお手伝いしていたことを思い出します。地球温暖化に関する業務に携わるのは初めてとなりますが、皆様に教えていただきながら、皆様とともに、2050年のカーボンニュートラル達成に向け頑張りたいと思いますので、よろしく願いいたします。

ゼロカーボンシティ推進課事業推進係 総括主査 杉浦 基司

8年ぶりに環境部に復帰し、竹内の後任として、再び地球温暖化防止隊の事務局を担当させていただきます。最近ではゼロカーボンなどの言葉が多く使われ、地球温暖化防止という言葉に懐かしさや柔らかさを感じます。防止隊の皆様の名簿を拝見し、懐かしいお名前を見つける一方、発足当時の方々が少なくなり時の移ろいの速さを感じています。私自身は公務員の定年延長の第1期生として一担当に戻り、デジタルの世界に悪戦苦闘中です。皆様と一緒に防止隊活動を盛り上げていけるよう頑張ります。



岡崎市地球温暖化防止隊事務局
【岡崎市環境部ゼロカーボンシティ推進課内】
TEL : 0564-23-6786 FAX : 0564-23-6536
Eメール ondankataisaku@city.okazaki.lg.jp



2024年4月発行